１－８

主題	偲ぶ会と家族アンケートからみえてきた看取り介護の課題
副題	看取り介護パンフレット作成へ

キーワード１　偲ぶ会	キーワード２　家族アンケート	研究(実践)期間	２ヶ月

法 人 名	社会福祉法人　すこやか福祉会
事業所名	葛飾やすらぎの郷
発表者（職種）	小笠原麻子（看護師）
共同研究(実践)者	木田文子（介護福祉士）、小田里華（CM）、新井敦子（施設長）、他

電　話	03-5648-8250	ＦＡＸ	03-5648-8251

今回発表の事業所やサービスの紹介	寅さんの柴又、両さんの亀有が近い下町に 2001 年開設の従来型の９６床（内ショート１２床）の特養。キーワードを“在宅”とし、サービス内容を考えている。特徴は、リフトや個人の体に合った車いす、ポジショニングでのクッションの利用等、補助器具利用に力を入れている。開設以来看取り介護にも力を入れており、毎年退所の８割は、施設での看取りである。

《１．研究(実践)前の状況と課題》

当施設は、開設以来、その理念に沿って、毎年施設での看取りをご家族との協力のもと実践してきた。2015 年度は、21 名の退所者中、16 名が施設での看取りとなり、15 名は看取り加算を取得させていただいた。

看取り介護については、入所時、サービス担当者会議時、病状悪化した時々に、どうすごしたいか、またどうすごしてほしいかを考えていただき、プランに反映している。

そして、看取り後は葬儀への参列によりご家族の様子を伺ったり、荷物を取りに来所されたときに伺ったりすることが主であった。また介護・看護中心にカンファレンスを実施し、振り返りをしてきた。家族会でも看取りをテーマにした学習会を実施したりもした。しかし、看取りの振返りは、職員の自己評価が主で、ご家族を招いての評価はまれであったため、看取り介護のご家族評価をいただき、課題を検討する材料としたいと考えた。

《２．研究(実践)の目的ならびに仮説》

① 看取り介護について、入所から退所までの流れの中で、その時々に、看取り介護についての施設側の取り組みについての、ご家族評価をアンケートをとることで、より率直な評価になるのではないかと考え実施した。

② その中から、当施設の改善点を明らかにし、新年度の事業計画に反映する。

《３．具体的な取り組みの内容》

対象者は、2015 年４月から 2016 年２月末までに、退所された 20 名中、17 名を対象とした（1 名は死亡確認が病院ではあったが、基本的には施設での看取りを希望されていたため対象にした）

①合同供養

お亡くなりになると、仏壇に写真を飾り、常日頃から線香をたいたり、お盆には迎え火や送り火もしている。今年度初めて、年度内にお亡くなりになった方の合同供養を実施した。遺族、入所者、職員、ボランティアも参列し、読経の中で供養の時間をもった。

無断転載・複製を禁じます。

②家族アンケート（回収数 17 名中 13 名 76%）郵送にて実施した。
③偲ぶ会
合同供養に参加された遺族、職員とで、看取り介護についてのアンケートを基に、特に自由記載の内容につき自由に発言していただいた。

《4．取り組みの結果》

①合同供養
施設全体の供養として、入居者やボランティアの参加もあり、大変良い機会になった。
②家族アンケート（特徴的なこと）
・「看取り介護の総合評価」は、大変満足と満足が、85%であったが、
「良い」「わかりやすい」以外の回答が多かった項目は
・入所時の看取りの意向確認は、わかりやすいが、54%
・サービス担当者会議での看取りの意向確認は、わかりやすいが 62%
・看取りについての医師の説明が、わかりやすいが 38%
・考えていた看取りのイメージと同じは、62%
であった。
　自由意見では、「入所時は元気だったので、看取りについて考えられなかったのが本当の気持ちです」「入所時ここまで話をするのかと思いましたが、考えさせられました」と戸惑いの気持ちだった回答もあった。
　「いつかは家族との最期の別れの時が来るのだと思っていましたが、最期があまりにも突然で、今でもいろいろ考えてしまいます」「最期の時は家族が間に合わず死を迎えました。子や孫に囲まれながらと考えていましたので少しイメージとちがいました」という記載もあった。
③偲ぶ会
6 遺族に参加いただき、各遺族の想いを語っていただいた。
「入所時は介護度も軽く、看取りについてはピンと来なかった。担当者会議をおこなうにつれわかってきた。もう少し後に話してもいいのではいか」（2 人）
「個室に移っても心の準備ができていなかった」
「息を引き取る所に立ち会えてよかった。食事介助をしている時、いつ食事をやめれば良いかわからず、葛藤があった」
「家族会で、亡くなった時の対応について話しても良いのではないか」
その他、入所中のサービスへの不満も率直にお話しいただいた。

《5．考察、まとめ》

　家族アンケート結果や偲びの会での発言から、
①入所時の意向確認ではイメージがわきにくい。
②医師の説明が理解しにくい
③家族みんなで、立ち会って看取るのが、看取りのイメージと考えているご家族が多い
④看取り時期に入っていても最期に立ち会えないと突然逝ってしまったという気持ちになる
という傾向があることがわかった。
　今後、当施設の「看取りに関するパンフレット」を作成し、入所時からそれをもとに説明し、いつでも、だれにでも読んでいただけるようにしていきたい。入所時にはピンと来なかったことも、施設での生活が継続する中の時々に読んでいただくことで、看取りのイメージを深めていただいたり、こんなことをお願いしてもいいんだと、家族ニーズの発掘につながる効果も期待したい。

《6．倫理的配慮に関する事項》

　ご家族に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7．参考文献》

「看取りの振り返りを有効に実施するためのガイド　反照的習熟プログラムのすすめ」
東京都健康長寿医療センター研究所

《8．提案と発信》

　特養の生活は、入居者、家族、職員、ボランティア等の協同の取組みの継続の先に、看取り介護の質もあると感じる。今回の取組みを元に、看取りのパンフレット作成やカンファレンスの持ち方等の改善の取組みも始まっている。

無断転載・複製を禁じます。